



日 口 交 流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



日本大使館より表彰状授与

千葉 麻里

8月に第20回日本文化交流団を終えての帰路、モスクワのトランジットで空港近くのレストランで日本大使館の山本敏生公使、青佐由香理一等書記官にお会いし、上月豊久特命全権大使からの当協会への表彰状を頂いてまいりました。そこには「貴殿はわが国とロシア連邦との相互理解及び友好親善に寄与しその功績顕著なるものがあります。ここに深甚なる敬意を表するとともに表彰します」と、あります。

2007年5月に第1回日本文化交流団をハバロフスク、ウラジオストックで開催して12年、毎年継続して20回目になった今年、このような名誉のある表彰状を頂いたことはたいへん喜ばしい限りです。これには多くの方々の協力なしには実現しえませんでした。

第1回は当時のモスクワ放送ハバロフスク支局の岡田和也氏のご協力を仰ぎ、日本国総領事館副領事だった山下雅子氏やウラジオストック総領事館の手配で、学校や図書館、友好協会「すずらん」等できものや茶道のデモンストレーションをしました。第3回は益田常任理事の紹介で、ペテルブルグのエカテリーナ・エヴセエワさんと出会い、総勢12名できもの、活け花、風呂敷、和裁のワークショップ。ロ日協会のレイピン会長(故人)やニーナ・ツベトコワ事務局長、日本総領事館でもとても歓迎して下さいました。

それからは、日本に招聘されたロ日協会の方々との出会いや、その方の紹介などでワニノ、ペルミ、ヤクーツク、エカテリンブルグ、サラトフ、オレンブルグ、チェリャビンスク、クラスノダール、ネビヤンスク、ウスチラピンスク、カーメンスク、イルクーツク等、様々な都市を訪問しました。サハリンの当時の瀬尾総領事からの依頼で、ユジノサハリンスク、コルサコフへ、当時のハバロフスクの高橋総領事は森元副会長の紹介で、ハバロフスク以外にもチタ、ウランウデ、ヤクーツクを訪れる機会をいただきました。チタでお会いした井出敬二特命全権大使には、その後も「ロシアにおける日本



向かって右は山本公使、左は松村氏

2018」などで色々とお力添え頂いています。そのお陰で日本大使館からもお声がかかり、第16回ではバルナウル、ノボシビルスクへ、第17回ではリャザンと3回目のサラトフ訪問。19回目はサハリンの日本総領事館の依頼により3回目のサハリンでホルムスク、ドーリンスクも訪問したことは先月号に掲載しました。門倉主席領事のお陰でハバロフスク総領事館を訪問、ロシアの日本総領事館や大使館の皆様は何度となくお招きいただきました。

ロシアには多くの友好団体があり、ハバロフスク「すずらん」のゾーヤ・ロイトマン氏、ワニノのナタリヤ・ソボレワ氏、サラトフのマリーナ・ジヤコワ氏にエカテリンブルグのマリーナ・ゴロミドワ氏、オレンブルグのリュドミーラ氏など日本を愛する人々と共にボランティアで頑張っています。どの街の人々との暖かい交流も忘れがたく、現在もその絆が切れることはありません。モスクワのターニャを始め各地の通訳も文字通り汗を流してくれました。現地の日本語の先生や留学生の皆さんとの出会いも思い出が沢山あります。

講習会はその後、折り紙、友禅、剣術、ちぎり絵、書道、編み紐、花ふきんやミニ浴衣、家庭料理、折り形(折り紙でない)と多岐にわたりました。また、航空券の手配等では旅行社の濱さんには随分無理をきいてもらいました。団長を勤めてくれた江守副会長や服部副会長には経済面でも援助していただきました。参加してくれたきもの仲間たち、第1回で活躍した長谷川理事、参加できないときも手作りのお土産を用意してくれた名島理事、複数回参加の矢野氏や高野氏、松村氏、岩本常任理事、望月理事、山岸常任理事、今後の活躍も期待している渡邊理事や笠原氏…。この2年、どれだけ大勢の方々に支えられてきたことか! どれほど感謝しても足りません。そして、今後も一層努力していきたいと気持ちを新たにしております。本当に有難うございました。(常任理事)